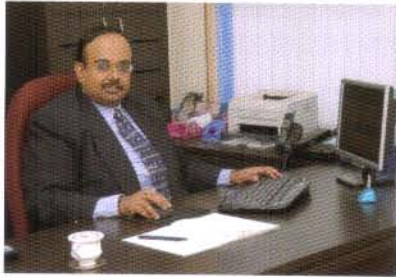


# 海外人材活用先進事例集

～観光、知財、不動産等幅広い分野で活躍～



経済産業省 近畿経済産業局

# 株式会社エヌ・ディ・アール

(大阪市)



インドでソフトウェアのオフショア開発。インド人が日本語の仕様書による設計開発をこなす。

## ■ 会社概要

- ・業種：情報通信業（ソフトウェア開発）
- ・海外展開先：インド
- ・国内社員数：80名（うち外国人社員50名）
- ・外国人社員：インド人、タイ人
- ・現地社員数：55名  
（会長、日本語教育担当のみ日本人）
- ・URL：<http://www.ndr.co.jp>

## □ 海外事業戦略

当社は日本においてソフトウェア開発を行っているが、インドでオフショア開発するため、1997年にインドのバンガロールに現地法人（日印ソフトウェア）を設立。現地の社長はインド人のS・N・ギリ氏で5年間当社において業務を行っていた経験がある。

現在は日本国内企業からの仕事がほとんどであるが、今後は、インドに進出している日系企業の顧客を獲得していく予定。

## □ 海外人材活用の状況

当社の社員は80名であるが、その内40名がインド人、10名がタイ人である。また、現地法人の日印ソフトウェアは会長と日本語教育担当を除き全てインド人。インド人は英語（準公用語）が出来ることに加え、日印ソフトウェア（インド現地法人）の社員は、採用後1年間の日本語と日本文化教育を徹底して行っているため、日本語の仕様書による設計開発が行える。日本の中小企業は、優秀な日本人IT技術者を獲得することが難しいが、インドのIT技術者は質・量ともに豊富。このため中小企業でも優秀な人材を獲得することが可能である。

## □ 日本人以上に営業上手なインド人

来日した際、ソフト技術者でありながら、その後営業を希望して、インドに進出している日系企業への売り込みを相次いで獲得した凄腕営業マンもいる。



□ 現地法人日印ソフトウェア社長：S.N.ギリ氏（インド人）のコメント  
一般的にインド人は日本人に比べてハッキリと自己主張するタイプが多いとよく言われていますが、採用の際には協調性などを重視しています。さらに、日印ソフトウェアでは最初から日本人の考え方（謙遜、和、柔軟性など）を教え込んでいます。このため、日本で働くことになった時にも早く溶け込み、顧客とのコミュニケーションも円滑に行っています。